

総会報告

事務長 神山始佳

昭和52年度同窓会総会は、11月6日(日)に母校学寮食堂において行なわれました。

同窓生119名、旧教職員2名、母校からは樋口学校長をはじめとする教職員の方々の御出席をいただき、総勢約140名にて開かれました。

予定より30分遅れ、午後0時30分より、司会の大沢(C1)の開会の辞に始まり、議長団には、議長仁科(M2)、副議長伊藤(E8)、書記箕田(M11)が選出され、白井同窓会長(M1)の挨拶の後、議事にはいりました。

先ず、事務長の神山(E2)より昭和51年度収支決算報告がなされ、監事木ノ内(M1)よりの監査報告があり、圧倒的多数にて承認されました。次に、会長より昭和51年度業務報告、続いて昭和52年度業務中間報告および昭和52年度業務計画案が提案され承認を受けた後、昭和53、54年度の次期三役の選出が行なわれました。久保田副会長(M2)より会長に望月俊和(M3)、副会長に筒井正文(M6)、事務長に小川吉晴(E5)の各候補が推薦され、満場一致で三君が夫々、選出されました。

次期三役の挨拶の後、議長団の解任を経て大沢より同窓会顧問教官・事務官および同窓会役員を紹介があり、無事、閉会致しました。

木ノ内の司会のもとに、懇親会に移り、同窓会名誉会長の樋口学校長の挨拶、そして、来賓の安土先生の祝辞の後、次期会長の望月の音頭にて乾杯、歓談となりました。歓談中、阪倉先生の祝辞をいただき、更に朝比奈先生の挨拶や坂本さんの喉を披露していただきました。

最後に恒例の近藤(M8)の指揮による校歌斉唱、長谷川(M1)の音頭による万才三唱にて、めでたく閉会しました。

昭和51年度運営会計経費収支決算報告書

拠出収入

科 目	決算額	予算額	比較
終身会費	1,380,000	1,380,000	0
受取利息	106,216	30,000	△ 76,216
寄附金	121,500	0	△ 121,500
總會懇親会会計より繰入金	41,000	0	△ 41,000
合 計	1,648,716	1,410,000	△ 238,716

経費支出

科 目	決算額	予算額	比較
会 議 費	198,325	130,000	△ 68,325
通 信 費	358,278	450,000	91,722
事務用品費	37,715	30,000	△ 7,715
慶 弔 費	51,000	50,000	△ 1,000
同 窓 会 誌	457,720	460,000	2,280
同 窓 会 だ よ り	64,000	70,000	6,000
雑 費	93,500	30,000	△ 63,500
郵便振替料金	4,345	10,000	5,655
印 刷 費	53,500	30,000	△ 23,500
旅 費 交 通 費	0	10,000	10,000
支 部 交 付 金	0	30,000	30,000
總會懇親会会計へ繰出金	50,000	50,000	0
新 聞 図 書 費	0	20,000	20,000
予 備 費	0	40,000	40,000
当 期 剩 余 金	280,333	0	△ 240,333
合 計	1,648,716	1,410,000	△ 238,716

昭和51年度名簿特別会計経費収支決算報告書

経 費 支 出		拠 出 収 入	
科 目	決算額	科 目	決算額
人 件 費	20,000	売 上	454,500
印 刷 製 本 費	1,323,000	当 期 不 足 金	1,046,190
通 信 費	57,140		
調 査 費	91,200		
事 務 用 品 費	2,000		
郵 便 振 替 料 金	7,350		
合 計	1,500,690	合 計	1,500,690

昭和51年度財産収支決算報告書

財 産 支 出		財 産 収 入	
科 目	決算額	科 目	決算額
現 金	283,152	前 受 金	△ 25,000
郵 便 振 替	539,775	仮 受 金	10,000
銀行普通預金	△ 1,234,930	当 期 剩 余 金	△ 765,857
銀行定期預金	71,146	(経費収支剰余金)	(280,333)
未 収 金	△ 440,000	(名簿特別会計剰余金)	(△ 1,046,190)
合 計	△ 780,857	合 計	△ 780,857

当期剰余金処分計算書

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
当 期 剩 余 金	△ 765,857	基 金	100,000
		減価償却引当金	3,336
		繰越剰余金	176,997
		名簿特別会計繰越剰余金	△ 1,046,190
合 計	△ 765,857	合 計	△ 765,857

貸借対照表(当期剰余金処分後)

昭和52年3月31日

資産の部		負債および基金の部	
流動資産	7,991,194	流動負債	1,150,000
現金	337,291	未払金	0
郵便貯金	549,705	前受金	1,140,000
銀行預金	2,899,198	仮受金	10,000
未収金	4,205,000	基金	6,861,284
固定資産	20,090	基金	340,000
什器備品	20,090	固定資産基金	20,090
		減価償却引当金	18,410
		剰余金	7,528,974
		名簿特別会計剰余金	△1,046,190
合計	8,011,284	合計	8,011,284

昭和52年度同窓会運営会計

経費収支予算案

拠出収入

科目	金額
終身会費	1,390,000
受取利息	80,000
合計	1,470,000

経費支出

科目	金額
会議費	150,000
通信費	370,000
事務用品費	20,000
慶弔費	50,000
同窓会誌	360,000
同窓会だより	100,000
雑費	100,000
郵便振替料	10,000
印刷費	170,000
旅費交通費	10,000
支部交付金	30,000
総会懇親会会計へ繰出金	50,000
予備費	50,000
合計	1,470,000

監査報告書

厳正なる監査の結果、会計帳簿は正確かつ明確に記帳されており、収入・支出とも適正で、昭和51年度収支決算報告書及び貸借対照表の記載に相違がないことを認めます。

昭和52年11月6日

監事 木ノ内倫弘 ㊟
飯田裕敏 ㊟



昭和51年度業務報告

会長 白井一夫 記

主要なものをまとめて報告致します。

- 51年4月 新旧役員引継
- 51年5月 母校校長との懇談会
- 51年7月 母校5年生と就職に関する懇談会
- 51年9月 「会誌第6号」発行
- 51年10月 「同窓会名簿」発行
51年度総会開催
- 51年11月 「同窓会だより」発行
- 52年2月 卒業生に対する同窓会活動等の説明会開催
- 52年3月 母校卒業式3役出席

昭和52年度業務計画及び中間報告

同 白井一夫 記

これまた主要なものを列記致します。

- 52年5月 新理事(11期卒生)紹介
 - 52年7月 5年生と就職に対する懇談会
 - 52年8月 新理事歓迎ソフトボール大会及び会誌編集委員会
 - 52年9月 「会誌第7号」発行
 - 52年11月 総会開催
次期3役決定
 - 52年12月 「同窓会だより」発行予定
 - 53年2月 卒業生に対する同窓会活動の説明会及び会費収集予定
 - 53年3月 母校卒業式3役出席予定
- 追記：次期3役(53、54年度3役)へ引継事項
その1 会誌、同窓会だより、及び総会は2年に1回にした
い。
- その2 同窓会支部組織の促進。
その3 5年生に対する就職に対する説明会は方法として再考を要す。

同窓会名簿購入のお勧め

●ルーズリーフ 120頁A4版、同窓会規約、1期~10期までの卒業生及び歴任教官・事務官の住所・勤務先を完全収録

定価 1冊 1,000円(送料共)

申込先 〒410 沼津市大岡3600
沼津工業高等専門学校同窓会
TEL <0559> 21-2700

方法 上記まで、現金を送付又は御連絡下さい

昭和52年度同窓会総会懇親会会計決算報告

拠出収入

総会費	50,000円 (運営会計より繰入)
懇親会費	192,000円 (1,500円×128名)
合計	242,000円

経費支出

オードブル	150,000円
飲物	27,320円
郵便振替料金	1,750円 (50円×35名)
剰余金	62,930円
合計	242,000円

剰余金は運営会計へ繰入れました。

昭和52年度同窓会風景



白井一夫現会長あいさつ



樋口泉校長あいさつ

昭和53及び54年度同窓会三役改選

現同窓会三役の任期が、昭和52年3月で満了になるのに伴い、会則第5章第8条により、下記方々を理事会において選出し、昭和52年度の総会で満場一致の承認を得ましたので、昭和53年度及び54年度の2年間、活躍していただくことになりました。新三役を中心に、更に一層同窓会の発展を推進する為に会員一同の多大なる御協力をお願いします。

記

- 会長 望月俊和 (M3)
- 副会長 筒井正文 (M6)
- 事務長 小川吉晴 (E5)



今は皆企業に生きる

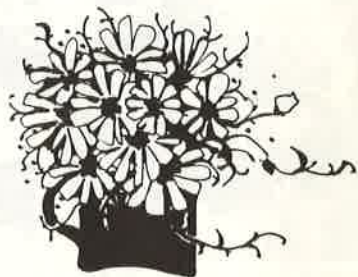


「先生今日はどうも、遠い所をごくろうさまです」

次期会長を引き受けるにあたって

卒業して8年。ほとんどを、同窓会の傍観者として過ごしてきた私に、会長という重責が務まるかどうか不安です。しかし、幸いにして、身近に、前会長・元役員の方々がおられますので、種々の助言を受けながら、ここまで発展した同窓会を衰退させることのないよう努力していきたいと思います。

学校を卒業してしまうと、日常の仕事に追われて、青春を過ごした学校のことも、共に学んだ友人の事も、ともすれば忘れがちになってしまいます。そのような時、年何回かの同窓会だより又は会誌が送られてくると、現実の忙がしさを忘れ、愛鷹山麓の白い校舎や友人の顔を思い浮かべながら、なつかしく読んでいたのではないのでしょうか。同窓会誌は、そのような意味を持つと同時に、歴史の浅い高専卒業生が社



M3 望月俊和



会に出て、どのような待遇を受け、どのように活躍（又は坐折）しているかを知り、知らせる為の手段でもあると思います。又、母校から遠く離れた所に職場を持つ同窓生にとって同窓会から送られてくる印刷物が、同窓会との唯一の媒体だという事を考え、同窓会誌をさらに充実させていきたいと思っています。

現在考えている事は上記1点だけで、来期の方針は、経験豊富な理事の方々・新副会長の筒井君・新事務長の小川君と相談し決めていきたいと思っています。

最後に同窓会を発展させる為、会員の皆様方に、会誌への投稿そして総会への参加をお願いしたいと思います。

編集後記

次期三役も決まり、三役をはじめ役員一同ほっとしているところです。来年度からは新三役のもとに、同窓会発展のため会員諸兄の尚一層の御協力をお願い致します。